

平成 23 年 8 月 1 日

平成 23 年 4 月～6 月期

大田区の 景況

調査対象

製造業 176 社 小売業 90 社

調査方法 郵送アンケート調査

調査機関 (株)東京商工リサーチ

これは、平成 23 年 7 月上旬に調べた平成 23 年 4 月～6 月期区内中小企業の景気動向と、これから先 3 ヶ月間（平成 23 年 7 月～9 月期）の予想をまとめたものです。

景気予報



大きく下降 下降 やや下降 横ばい やや上昇 上昇 大きく上昇

製造業	今期		<p>製造業全体の主要指標について見ますと、業況は悪化傾向がかなり強まっています。売上額と収益はともに減少・減益幅が大きく拡大しています。受注残は若干低迷しています。</p> <p>価格面では、原材料価格は上昇がかなり弱まり落ち着きを見せ、販売価格は大きく下降を強めました。在庫は過剰感が若干強まっています。来期の原材料価格は上昇幅が若干縮小し、販売価格は下降が多少強まると予想されています。</p> <p>経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」66%、2 位「原材料高」32%、3 位「利幅の縮小」30%、4 位「同業者間の競争の激化」21%となりました。</p> <p>重点経営施策では、1 位「経費を節減する」61%、2 位「販路を広げる」51%、3 位「新製品・技術を開発する」27%、4 位「情報力を強化する」26%、5 位「人材を確保する」19%となり、経営上の問題点と同様に 5 位まで前期と同順位になりました。</p>
	来期		<p>来期の業況は厳しさが極端に増すと見込まれています。</p>

小売業	今期		<p>小売業全体の主要指標について見ますと、業況はわずかに改善しています。売上額は減少を大きく強め、収益は若干持ち直しています。</p> <p>価格面では、販売価格は下降をかなり強め、仕入価格は上昇幅が大きく縮小しました。在庫は過剰感がわずかに強まっています。来期の販売価格は下降傾向が大幅に改善し、仕入価格は上昇がやや強まると思われます。在庫は過剰感がわずかに強まると見込まれています。</p>
	来期		<p>経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」69%、2 位「利幅の縮小」31%、3 位「同業者間の競争の激化」28%となり、前期の 2 位と 3 位が入れ替わりました。</p> <p>重点経営施策では、1 位「経費を節減する」64%、2 位「売れ筋商品を取扱う」25%、3 位「品揃えを改善する」「宣伝・広報を強化する」がともに 23%となりました。</p> <p>来期の業況は低調感が多少強まると予想されています。</p>

経営上の問題点

経営上の問題点（製造業） (%)

	平成22年 4～6月期	7～9月期	10～12月期	平成23年 1～3月期	4～6月期
1位	売上の停滞・減少 74	売上の停滞・減少 73	売上の停滞・減少 76	売上の停滞・減少 72	売上の停滞・減少 66
2位	利幅の縮小 35	利幅の縮小 35	利幅の縮小 33	原材料高 33	原材料高 32
3位	同業者間の競争の激化 27	同業者間の競争の激化 31	同業者間の競争の激化 27	利幅の縮小 27	利幅の縮小 30
4位	原材料高 25	販売納入先からの値下要請 21	販売納入先からの値下要請 23	同業者間の競争の激化 21	同業者間の競争の激化 21
5位	販売納入先からの値下要請 22	原材料高 21	原材料高 20	工場・機械の狭小・老朽化 18	工場・機械の狭小・老朽化 20

経営上の問題点（小売業） (%)

	平成22年 4～6月期	7～9月期	10～12月期	平成23年 1～3月期	4～6月期
1位	売上の停滞・減少 76	売上の停滞・減少 77	売上の停滞・減少 76	売上の停滞・減少 74	売上の停滞・減少 69
2位	商店街の集客力の低下 36	商店街の集客力の低下 30	商店街の集客力の低下 39	同業者間の競争の激化 29	利幅の縮小 31
3位	利幅の縮小 24	同業者間の競争の激化 25	同業者間の競争の激化 24	利幅の縮小 28	同業者間の競争の激化 28
4位	天候の不順 23	取引先の減少 20	利幅の縮小 20	仕入先からの値上げ要請 19	取引先の減少 23
5位	同業者間の競争の激化 21	利幅の縮小 18	取引先の減少 18	商店街の集客力の低下 16	大型店との競争の激化 18

コメント

製造業

- ① 4月5月は震災により売上が半減。6月に入り、90%まで回復。7月以降は100%に戻ることを期待している。(輸送用機械器具)
- ② 得意先の震災影響により、受注が減少した。(同上)
- ③ リーマンショック前の90%まで回復した。今後、見通しは不明。従業員の処遇も改善中。その中で、利益の確保に腐心している。(電気機械器具)
- ④ 得意先は受注好調なものの、部品調達難により減産。その影響によって注文減。(同上)
- ⑤ 徐々に景況回復傾向にある。(一般機械器具、金型)
- ⑥ 震災による技術流出、円高、材料高、政治不安定。前途多難な時期になる。(同上)
- ⑦ 建機の部品加工なので、減産の話はない。(金属製品、建設用金属、金属プレス)
- ⑧ 震災後、得意先の経営方針が危機管理の為、一社集中から複数社購買に変わった。競争の激化が中小で起こることに不安を抱く。(同上)
- ⑨ 震災後、激減。一ヶ月仕事がない。(精密機械器具)
- ⑩ 昨年同時期に比べて景況は上向き。但し、東北震災の影響で部材が入らず納期が延び、受注から代金回収までのサイクルが間延びしている。(同上)

小売業

- ① 今期は地デジに変更になるので、5月頃から現在まで大変忙しく、毎日頑張っている。変更後は急激に仕事の量が少なくなるかと心配である。(家具、家電、医薬品)
- ② 6月下旬からの早い猛暑到来の為か急激に来客数が減少。企業の就業形態(サマータイムや休日変更)等に伴うライフスタイルの変化がどのように影響するか見通しが立たない。(飲食店)
- ③ 三陸産のわかめを中心に販売している会社なので、今回の大震災の影響を諸に受け、全て悪化。今は生き残るかどうかだけだ。(飲食料品)
- ④ 商業施設からの15%電力削減目標を出された。大手小売チェーンはLEDライトに変更したが、当社は費用負担がかかる為、「消灯」で対応している。近隣に比べて暗い店内になってしまう為、夏から秋の客導入数に影響が出ないか不安である。(衣服、身の回り品)
- ⑤ 呉服業。地元販売は皆無。外商でやり抜く。(同上)

特別調査「中小企業の採用動向について」

問1. 正規社員・非正規社員の雇用

(単位: %)

業種	正規社員の雇用			非正規社員の雇用			
	増やす	変えない	減らす	増やす	変えない	減らす	従来から いない
全体	17.0	73.4	9.6	8.7	53.5	8.7	29.1
製造業	19.4	70.9	9.7	7.5	53.1	7.5	31.9
小売業	10.8	80.0	9.2	11.4	54.3	11.4	22.9

問2. 新卒社員の採用実施の有無とその理由

※白地の%は「採用した」「採用しなかった」各々の項目における割合。(単位: %)

業種	採用した	採用した理由					採用しなかった	採用しなかった理由				
		定例的な人材の採用 (欠員補充を含む)	業務の拡大・多様化	新卒のほうが中途より賃金が低い	知人・取引先等からの依頼	その他		優秀な人材がいなかった	採用募集への応募がなかった	新卒採用は教育に手間がかかる	もともと採用する気がなかった	その他
全体	21.0	58.3	12.5	6.3	16.7	6.3	79.0	3.3	4.4	9.4	72.9	9.9
製造業	23.1	56.8	8.1	8.1	21.6	5.4	76.9	4.9	4.9	10.6	68.3	11.4
小売業	15.9	63.6	27.3	0.0	0.0	9.1	84.1	0.0	3.4	6.9	82.8	6.9

問3. 中途社員の採用実施の有無とその理由

※白地の%は「採用した」「採用しなかった」各々の項目における割合。(単位: %)

業種	採用した	採用した理由					採用しなかった	採用しなかった理由				
		即戦力の獲得	業務の拡大・多様化	新卒より採用が容易	知人・取引先等からの依頼	その他		優秀な人材がいなかった	採用募集への応募がなかった	採用条件が折り合わなかった	もともと採用する気がなかった	その他
全体	45.0	54.4	21.4	9.7	6.8	7.8	55.0	3.2	1.6	0.8	88.1	6.3
製造業	46.6	56.0	21.3	6.7	6.7	9.3	53.4	2.3	2.3	1.2	84.9	9.3
小売業	41.2	50.0	21.4	17.9	7.1	3.6	58.8	5.0	0.0	0.0	95.0	0.0

問4. 高齢者の再雇用と新規採用

(単位: %)

業種	高齢者の再雇用				高齢者の新規採用			
	積極的に再雇用していく	本人の能力による	本人の人柄による	再雇用することは考えていない	積極的に採用していく	本人の能力による	本人の人柄による	採用することは考えていない
全体	27.7	48.7	6.3	17.3	2.7	32.4	5.3	59.6
製造業	35.6	52.6	3.7	8.1	2.4	34.9	4.0	58.7
小売業	8.9	39.3	12.5	39.3	3.2	27.4	8.1	61.3

問5. 外国人従業員の雇用の目的 (3つまで回答可)

※白地の%は「雇用している」項目における割合。(単位: %)

業種	雇用している	雇用している理由					雇用していない			
		勤勉さや仕事への意欲	海外進出の足がかり	外国人顧客の増加への対応	日本人には無い発想	能力				
全体	13.7	56.7	3.3	3.3	3.3	33.3	16.7	13.3	10.0	86.3
製造業	15.1	56.5	4.3	4.3	4.3	26.1	21.7	8.7	13.0	84.9
小売業	10.4	57.1	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	28.6	0.0	89.6

東京都内の概況／業況：回復に向けて踏み出す

見通し：上昇期待が高まる

概況

平成 23 年 6 月の都内中小企業の業況 D I（業況が「良い」とした企業割合－「悪い」とした企業割合）は－46 となり、前期に比べて 8 ポイント改善しました。今後 3 ヶ月間（平成 23 年 7 ～9 月）の業況見通し D I では、今期比 18 ポイント増の－28 と大幅に上向くと見込まれています。

製造業

前期（23 年 3 月）と比較すると、業況は大幅に持ち直し、売上高も減少に大きく歯止めがかかっています。

価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で推移し、仕入価格は上昇がかなり弱まり落ち着きを見せました。

業種別に見ますと、「住宅・建物関連」と「その他」の製造業では悪化がかなり強まりました。「衣料・身の回り品」「紙・印刷」「材料・部品」「一般・精密機械等」「電機機器」では、厳しさが大きく和らぎました。

今後 3 ヶ月間の見通しは、業況は悪化幅が大きく縮小し、売上高はわずかに低迷すると予想されています。

小売業

前期（23 年 3 月）と比較すると、業況は前期並の悪化幅で推移しています。売上高は減少幅が極端に縮小しました。

価格面では、販売価格は厳しさが多少和らぎ、仕入価格は良好感に若干かげりが出ました。

業種別に見ますと、「食料品」は極端に低迷し、「日用雑貨」は低調感をかなり強めました。「耐久消費財」は若干明るさが見え、「余暇関連」は大幅に改善し、「衣料・身の回り品」は特に大きく改善しました。

今後 3 ヶ月の見通しは、業況は厳しさが極端に和らぐと予想されており、売上高は今期同様の減少が続くと見込まれています。

この調査についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

大田区産業経済部産業振興課

TEL : 3733-6181 FAX : 3733-6103

E-mail : sangyo@city.ota.tokyo.jp